# 第２回研究会

平成１８年６月２７日（火）午後２時
消防庁舎大会議室

主な内容

◆「これまでの協働」

これまでの協働として、何をやってきたか。
どうしてそのようなやり方だったのか。

◆何をやってきたか　‥‥協働事例の紹介

・パソコン初心者教室
・地域安全パトロール隊
・花卉園芸植物園（国営公園）の計画、管理運営　　など

◆どうしてそのようなやり方だったのか

『パソコン初心者教室』

ＮＰＯ法人尾北シニアネットに委託して開催してきた。

★なぜ、ＮＰＯに委託したのか。

・市には、教室を開催する人材等、体制がなかった。
・委託した方がうまくいくと考えた。

★依頼されたＮＰＯは、どう考えていたか。

・業者よりコスト安で開催できる。
・高年齢者同士、効率だけではない対応ができる。ニーズへの応答。
・ＮＰＯとしても会員の生きがいづくりに役立つ。

『地域安全パトロール隊』

区（町内会）が中心となって立ち上げ、市はパトロールに必要な反射材付ベスト、赤色非常灯、青色回転灯を準備。

★なぜ、警察、行政が直接やらないのか。

・行政が直接やるとコスト高。
・区（町内会）がやれば自分たちの地域であり、地域事情がわかる。
・社会貢献しているという意識がもてる。健康増進、生きがいにもつながる。

『花卉園芸植物園（国営公園）の計画、管理運営』

国、市が進める公園建設であるが、利用しやすい、親しまれる公園でありたいことから、市民が計画段階からワークショップを重ねながら建設に関わってきた。

★なぜ、公園の建設計画、管理運営に市民参加なのか。

・コスト面で言えば、ワークショップなどで議論していくのは、時間もかかりコスト高となることも。公園の管理運営面ではコスト安が期待できる。

・利用者として計画段階から関わることで、利用者のニーズにあったものとなる。
・相乗効果として愛着がわく。その事業・活動に関わることによって密着性が高まる。感触が確かなものとなる。

◆関連して出た意見など

○市民合意の形成について

・全員が参加しなくてはいけないのか。合意できた人だけが参加することでもよいのではないか。
・ものによって参加の規模が違ってもよいのではないか。
・やれる人が、やれる時にやる。自由な意思に基づいて参加する。
・地域安全パトロールに参加する人は、合意ができた人だけでもよい。でも、地域の安全に目をくばるという意味では住民全員が参加してもらいたい。

○「協働」とは何か、わかりにくい

・住民説明会で「市民の皆様一人ひとりが主役です」と繰り返されていたが、どういう意味なのか。どうして突然「協働」なのか。
・「協働」は一つの手法として、訓練が必要である。市民、行政双方について「協働」に関しての教育、ＰＲが必要である。
・市内のＮＰＯ・ボランティアグループが分野を越えた連帯を広げながら協働していくことが必要である。